

聖書使徒の働き 2 : 1 ~ 21

2019/12/29

「五旬節の日に」

1. はじめに

- ・「聖霊を注いでくださったのです。」 33節
- ・五旬節について

* この箇所はペンテコステを語っている聖書中唯一の箇所です。五旬節とルカは淡々と書いてありますが、五旬節はユダヤ教、キリスト教にとって重要な意味を持ちます。ユダヤ教にとっては律法が与えられた日、後のキリスト教にとっては聖霊が注がれた日であるからです。

2. 本文

a. 1 ~ 4 節 :

- ・ 1 節 : 五旬節の日に皆が同じ場所に集まっていた。
- ・ 4 節 : すると皆が聖霊に満たされ、御霊が語らせるままに、他国のいろいろなことばで話し始めた。

* (皆が同じ場所に集まっていた。) 集まる限りは目的がある。文脈から見ると「彼らは心を一つにして祈っていた。」と思います。そして聖霊の現れがありました。

* この弟子たちの交わりを「コイノニア」とギリシャ語の新約聖書は記す。

b. 5 ~ 13 節 :

- ・ 8 節 「それぞれが生まれた国のことばで話を聞くとは。」 (驚き)
- ・ 13 節 「彼らは新しいぶどう酒に酔っているのだ」
- ・ バベルの塔の話 創世記 11 : 1 ~ 9

* 7 節 : 「見なさい。話しているこの人たちはみな、ガリラヤの人ではないか。」

* 聖霊が注がれることについて、エレミヤ 31 : 31 ~ 34

* 神の働きについて、マタイ 3 : 9

c. 14 ~ 21 節 : ペテロの説教が始まる。預言者ヨエルのことば。ヨエル : 2 : 28 ~ 32

* ヨエル書の前に、聖霊が与えられた前後のことを思い出して欲しい。彼らは「泊まっていた屋上の上の部屋にいた。」主イエスは処刑された。彼らはイエスが逮捕された時、蜘蛛の子を散らすように逃げていった。そんな彼らは 14 節「ペテロは 11 人とともに立って、声を張り上げ、人々に語りかけた。」

- ・ 17 ~ 18 節と 19 ~ 21 節
- ・ 「わたしの霊を注ぐ」と「終わりの日」の有様。

* 21 節 「しかし、主の御名を呼び求める者はみな救われる。」

3. まとめ

* 聖霊の働きと我が主イエスを伝える原点とは。

* 新しい人とは。

* イエス様のこの世に来られた使命は「失われた人を探し、救う為でした。」使徒たちはイエスを証しする使命を聖霊によって与えられました。パウロは御霊によってイエスを語ります。「あなたがたはみな、キリスト・イエスにあって一つだからです。」ガラテヤ 3 : 28